

# 令和5年度 ふくしまを十七字で奏でよう

～届けたい 未来へつなぐ 十七字～

## 絆部門 最優秀賞

お父さん いっしょに食べよう オンライン(子)  
いただきます 単身の夕げに 子の笑顔(父)

今日の歌 じいじのはん定 どつきどき(孫)  
今日もまた 判定悩む 風呂の中(祖父)

おてっだい おさうあらいは まかせてね(子)  
キッチンに ふみ台ひとつ 笑みふたつ(母)

ぼつぼつと ばあちゃんだけには 話せちゃつ(孫)  
聞くだけで 孫の表情 柔らかく(祖母)

青春の 銀色フルート 娘へと(母)  
響かせて 母の青春 受け継いで(子)

## ふるさと部門 最優秀賞

しんきろう 只見線が 連れて来る(子)  
こだまする 踏み切り音と セミの声(母)

野馬おいに ぼくも出たいな とつさんと(子)  
背に指した 旗の重さも 伝えたい(父)

町並みの ひとつひとつが 資料館(子)  
ふるさとの 思い出巡り 語りべに(母)

ふるさとを どこか知らずに 十二年(子)  
あの日から 行く先々が ふるさとに(母)

伊達の桃 一桃一会 国宝級(母)  
そぼあげる ぶつだんのもも いかおり(子)

## 絆部門 優秀賞

聞いててね 校歌を全部 覚えたよ(子)  
我が母校 親子で歌い 懐かしむ(母)

「丸つけて」 「おなかすいたよ」 ママをよぶ(子)  
キッチンで ペンと箸もつ 二刀流(母)

父の日に 初めて作る オムライス(子)  
幸せを かみしめなかなか 食へられず(父)

置き忘れ スマホさがしは 孫だのみ(祖母)  
またきたか 呼びだし音で 捜査隊(孫)

気づいたら 同じ鼻歌 合唱に(母)  
親子だね 母との合唱 笑つ父(子)

## ふるさと部門 優秀賞

こわかった ししまいっか ぼくがやる(子)  
いつの日か 息子につなぐ 笛の音(父)

じいちゃんの 福島なまり 元気出る(子)  
「めんこいな」 祖父のことばを 真似る子(母)

夢見た 娘とたたける ほんおどり(父)  
はじめての はつぴをきていく ほんおどり(子)

桑の葉に 蛙が涼む 炎天下(子)  
さわさわと ゆれる葉陰に 涼もとめ(母)

名物の メヒカリ唐揚げ 母の味(子)  
メヒカリを 揚げると光る 子の笑顔(母)

お問い合わせ先

福島県教育庁  
社会教育課

〒960-8688 福島市杉妻町2番16号 (西庁舎4階)

TEL 024-521-7799

URL ▶ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70016a/>

社会教育課HP



社会教育課X(旧Twitter)



協賛企業・団体 (50音順)

会津中央乳業株式会社、株式会社岩瀬書店、株式会社ダイユーエイト、株式会社テレビユー福島、株式会社ナカジマエレテック、株式会社福島銀行、株式会社リオン・ドールコーポレーション、公益財団法人日本漢字能力検定協会、公益社団法人福島青年会議所、公立学校共済組合飯坂保養所「あづま荘」、伊達物産株式会社、東信建設工業株式会社、福島中央テレビ、福島民報社、福島民友新聞社、酪王協同乳業株式会社

この事業は、「福島県東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。

## ふるさと部門 佳作

## 絆部門 佳作

孫の声 聞き取りできず 笑っただけ(曾祖母)  
しわくちやの えがおにつられ わらわい(曾孫)

散歩道 ばあちゃん私に つかまって(孫)  
同じ道 昔は背負い 今ひかれ(祖母)

周り見て 誰もいないね パパ抱っこ(子)  
久しぶり 待ってました その言葉(父)

ままはサイ あれしなサイ これしなサイ(子)  
むずこはサル 見ザル聞かザル やらずにサル(母)

じいちゃんの 初めて見たよ 泣き顔を(子)  
うれし泣き 回復願う ガラス越し(母)

夏の夜 蛙の合唱 響く空(子)  
川の字に 寝そべりいつまで 聞けるだろう(母)

飯盛の おほかの数に 涙する(子)  
かつて見た 飯盛山の 立ち葵(父)

磐梯山 見上げた峰が 足元に(子)  
峰に立つ 子の背が大きく 見える夏(父)

冬が来る みんな大好き みかんがり(子)  
海の町 みかんの丘と 赤とんぼ(母)

じいじまで じゃんがらのおと とどいてね(子)  
鐘の音に 背すじを伸ばす 息子たち(母)

らんとせる わたしといっしょに なつやすみ(子)  
ピカピカも 板についたね いちねんせい(母)

母が弾く 箏の音色を 学び見る(子)  
曲合わせ 重なる音色に 心打つ(母)

自転車を とぼして買った カーネーション(子)  
ありがとっ 照れる息子に 笑みこぼれ(母)

おさがりの 母のゆかたで 夏祭り(子)  
その姿 十二の私と うりふたつ(母)

心湧く 近づく足音 咲く笑顔(子)  
金曜日 桃を土産に 胸躍る(父)

よく来たな 笑顔で迎える 祖父と祖母(孫)  
また来いよ 柱の傷に 願ひ込め(祖父)

歴史継ぐ 松明あかし 赤い空(孫)  
わが街を てらして花火 打ち上がる(祖母)

虫送り 次代に残す 撮影隊(子)  
伝統を みんなでささえた 虫送り(父)

父が言う 今なき磯部 みてみたい(子)  
伝えたい 過ごした町の よきところ(父)

夏の宵 姉と分担 盆支度(子)  
夏の月 語らいはずむ 姉妹影(母)

## 未来へとつなぐ 届けたい想い ~参加者の感想~

◆何気なく過ごしている生活のワンシーンを切り取って、十七字に想いを乗せるのはとても難しかったです。通勤先からの帰省時、親子で互いの絆について真剣に考えたことは、大変有意義な経験でした。

◆核家族で過ごすことの多い時代ですが「祖父母を含めた家族のつながりの深さや絆の大きさ」が、孫達の成長の糧となっていてくれることを願っているところです。

◆その時の気持ちをかたちにでき、お互いの心が通い合い親と子が向き合うきっかけとなる、心があたたかくなるそんな取り組みだと感じています。もう十回近くの参加になりますが、また来年もぜひ参加したいです。

◆普段子どもと接する中では、野馬追に出たいという気持ちを持っていることを知る機会は無かったのではないかと思います。今回の受賞の通知を頂いた後に、改めて野馬追に出たいかと尋ねたところ、力強く「うん」と言ってくれました。

◆我が家では、参加することが夏の風物詩になっています。母も私も忙しく、こういう機会がないとなかなか「親子の絆」や「ふるさと」について真剣に考えたり話し合ったりすることができないので、本当に良い機会だと思って楽しんで作品づくりをしました。

◆小学校から始まり、毎年夏休みの宿題が大変でした。1・2年生の頃には、娘にとって意味が理解できず、それが月日を経て二人で考えるようになり、最後には賞を頂き今までの努力が報われた気分です。

◆子どもの頃に食べた美味しい桃を、娘が笑顔いっぱい大きな口で頬張り、嬉しそうに食べている姿を見て、幸せな気持ちになりました。福島伊達の桃の美味しさが次の世代、また次の世代へと受け継がれていると思うと、嬉しくなりました。この作品作りを通して、親子で改めて福島の魅力を感じることができました。